

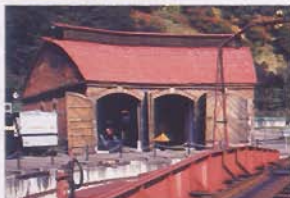


貯水槽

小樽築港機関区でも使用されていた工具・ゲージ類と蒸気機関車の部品を展示。精密に作られた縮尺1/5の蒸気機関車（せうき）も置いてあります。

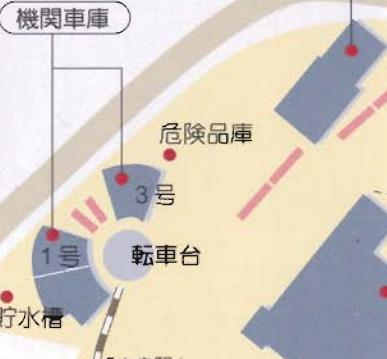


蒸気機関車資料館



機関車庫

機関車庫3号 明治18(1885)年竣工のレンガ造り建築。国内に現存する機関車庫のなかでは最古です。隣接する機関車庫1号、危険品庫、貯水槽、擁壁(ようへき)、転車台とともに国の重要文化財に指定されています。



《アイアンホース号》運行ルート



アイアンホース号 北海道で最初に輸入された《義経号》《弁慶号》《しづか号》と同じアメリカのH.K.ポーター社で明治42(1909)年に製造されました。小型ですが、開拓時代に走った機関車の特徴を見ることが出来ます。アイアンホース号は客車を引いて構内の線路を実際に走ります。SL乗車をお楽しみください(乗車無料)。

北海道鉄道開通起点標

「手宮駅」のりば

転車台

屋外静態展示車両

北海道で活躍した鉄道車両が、機関車庫やホームに並びます。特に除雪用の車両が多いのは、雪国ならではの展示です。当時の作業風景や内部の復元をした車両もあります。



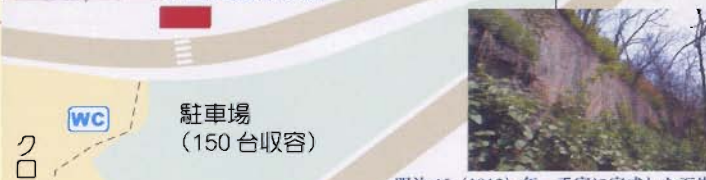
続縄文時代(本州の弥生~古墳時代)に刻まれた彫刻壁画が残されています。日本海をはんだサハリン、大陸との交流を語る遺跡です。国指定史跡。入館料100円 中学生以下無料。月曜休館 ☎0134-24-1092



手宮洞窟保存館

★手宮洞窟保存館と高架橋橋取付線擁壁は、総合博物館の敷地外にあります。

高島・祝津
高架橋橋取付線擁壁



明治45(1912)年、手宮に完成した石炭積込用の高架橋は、北海道の鉄道の最も重要な役割であった石炭の運搬と、北海道の玄関口・小樽港を象徴する構造物でした。この擁壁は、その時代から残り、数少ない遺構です(路上から見学可能)。



鉄道・科学・歴史館



総合博物館の中心となる建物。前庭には北海道最初の鉄道建設の功労者であるアメリカ人技師・クロフォードの像が建っています。

自動車展示館・収蔵庫



明治時代のアメリカ製蒸気自動車ヤル・マン24耐久レースで優勝したマツダ787Dなどを展示。その他、昭和30~40年代の代表的な車を収蔵しており随時、展示を入れ替えていきます。

★冬期間は屋外の車両の公開はいたしません



北海道の鉄道の歴史は、ここ手宮から始まりました。この地ならではの歴史的遺構の数々が館の内外で、静かに時を語っています。

★冬期間は運休します

WC
手宮口